

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891500050		
法人名	有限会社 エム・エス・ティ介護倶楽部		
事業所名	高齢者グループホーム アテン中郷 (2ユニット共通)		
所在地	茨城県北茨城市中郷町小野矢指846		
自己評価作成日	令和 5年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和 6年 3月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JkyosyoCd=0891500050-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JkyosyoCd=0891500050-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年12月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく、穏やかな暮らしができるよう支援しています。居室はご自分の使い慣れたものを持ち込んでなじみのある落ち着いた空間を作るようにしています。自分で出来ることは行って頂くよう見守りし、出来ないことはお手伝いするよう支援しています。レクリエーションはホワイトボードに書いてクイズをだしたり、折り紙など使ってみんなで一つの作品を作りあげたりしたものをロビーに飾ったりしています。みんなで一緒に行くことで相手との人間関係を築いたり、コミュニケーションの促進を図ったりしながら楽しく生活出来るように努めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな畑地に立地し、手作りの食事を囲み、家庭的な雰囲気での支援を大切にしている。敷地付近の自主的な除草作業を定期的に行っており、できる範囲で職員と一緒に作業を手伝う利用者がいる。近隣住民とは野菜の差し入れなどの交流があり、コロナ禍で外出の制限があるが、住民の好意で、たけのご掘りや土手の山菜を摘んだり、季節を感じながら自然と触れ合う機会がある。近隣の小学校とは、ビデオレターや贈り物の交換など交流が継続している。事業所は離職が少なく、長年務める職員が多い。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	ゆん	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき温かい環境作りを心掛けています。	利用者の感情を抑えず、うまく言い出せない気持ちを引き出せるように利用者の話を傾聴している。職員の勉強会では、利用者一人ひとりに合った介助方法を考え、寄り添った支援ができるよう話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、自粛していますが落ち着いたら小学校や地域と交流を続けていけるように努めます。	事業所付近の草刈りや清掃活動に利用者と職員が参加している。利用者もできる範囲の作業を手伝い、地域の人と挨拶するなど交流をしている。近隣住民から季節の野菜、果物の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの為、自粛していますが落ち着いたらボランティアなどを受け入れるようにします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの為、自粛しています。施設職員だけで会議を行い議事録をまとめています。来訪された時などに意見や要望を聴き、希望に添えるように努めています。	書面開催を行っている。資料は送付したり、地域の人には手渡している。感染症に関してや道路環境について話し合い、自治会のメンバーからも市に働きかけてくれるなど協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの為、自粛していますが、落ち着いたら市で行っている勉強会や研修に参加するよう努めます。	コロナ禍以前は市主催の多職種によるコミュニティ研究会に参加していた。市役所に行き、事務的な手続きや空き情報などの情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設けて3ヶ月に1回以上開催しています。研修を年2回実施してしており、研修を通して拘束を行わなくても済む工夫に努めています。	身体拘束廃止委員会と勉強会を毎月ごとに定期開催、事例検討やグレーゾーンについて、学んでいる。インターネットで資料を探して作成し、毎回事例検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で観察しながら虐待が無い確認しながら支援するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する方がいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し、理解・納得・同意を得て契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪された時など要望や意見を聞き、希望に添えるよう努めています。	玄関に意見箱を設置するとともに家族等が来訪した際に意見や要望を聞いている。意見や苦情を受けた後の解決に向けた手順を重要事項説明書に明記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は職員会議を開き、翌月のイベントなどの日時や内容、要望など意見交換をしています。	日ごろから話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、意見交換をしている。コロナ禍で外出が少なくなったため、室内で楽しめるようレクリエーションに工夫をするという職員意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を考慮して給料を上げるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回勉強会を行っています。そこで意見交換をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスで自粛しています。必要がある時は交流を持ちます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に慣れるように家族や本人に了承を得て、馴染めるように呼ばれていた名前でするようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学して頂き、概要や施設を説明をしています。不安や要望を聞き、理解・納得出来るまで話をするように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から希望や要望、生活状態やADLの聞き取り調査を行い支援の方向性を考慮し、対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、おやつ・食事の下ごしらえなどレクリエーションを兼ねた生活リハビリを一緒に行っています。一緒に活動しながら不安や悩み、好みや要望を聞くように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支払いは現金精算のため月に1回来訪になっています。その時に現状の報告・連絡・相談をします。受診の協力を頂いている家族もいます。遠方や忙しい家族には電話で連絡します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話がきた方には本人の状況を伝えたり、第5類になってからは、玄関先で10分程度の面会を行っています。	フェイスシートを作成して、利用者の馴染みの関係を把握している。自宅への外出や携帯電話の使用、馴染みの理美容院が来訪してくれるなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが発生した際には、お互いの話を聞き悪化しないように努めています。日常会話の不足している利用者に対しても配慮するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者や職員が家族と連絡を取りながら、家族をサポートし連携や協働が出来るように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から情報を聞き出し、職員が共有・理解しながらその人に合ったサービスを提供出来るように努めています。	日常の会話の中で気付いたことは、話し合いをしたり連絡ノートで申し送りをし、職員間で共有するとともに家族等へ確認するなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と話をしながら、これまでの暮らしを把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個人記録で情報を把握し、理解するように努めています。また、本人との会話の中で聞き出したりしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、個人に合った支援が出来るようアイデアを出し合い意見交換をしています。	2ヶ月ごとにモニタリングを行い、担当者会議は半年ごとに行っている。会議では職員間で利用者の状況を報告し合っている。体調の変化や退院時等、変化に応じての見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行い、個人に合った支援が出来ているか見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって病院の付き添いを行っています。その時の報告は、随時行っています。何か変わったことがあれば随時連絡をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため、自粛していますが、ボランティアなど可能な限り参加出来るよう支援していこうと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	バイタルや行動などの記録をして、それをもとに主治医に詳しく相談し、対応方法を検討してもらっています。家族にも随時、相談、報告する。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回あるほか、定期通院が月1回ある。契約時にはこれまでのかかりつけ医への継続受診が可能なことを説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指示の元、適切な処置を行うようにしています。本人の体調に変化があった場合にはすぐに伝えて、相談するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーの提出、退院時は看護サマリーを受け取るようにしています。相談員と連携を図りながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員同士だけでなく、家族にも体調の変化について連絡し、随時相談するようにしています。	入居時に、事業所の看取りの指針(マニュアル)に沿って、事業所としてできることを説明するとともに主治医からの説明や看護師と家族等で、方針の統一を図っている。内部研修を毎月行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設で応急手当や緊急時対応の手順を勉強をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しています。新型コロナウイルスのため、施設のみで自主訓練を行こなっています。	火災以外に水害を想定した訓練を行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。食品は多めに蓄えローリングストックしている。	事業所の立地を鑑みて、土砂災害や夜間想定避難訓練と、災害に備えた備蓄品の管理を行う取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、着脱などプライバシーを考慮して支援するように努めています。本人の誇りを尊重し、話を否定せず傾聴するようにしています。	利用者の話を否定せず傾聴する姿勢で支援している。管理者は、親しみのある中にも利用者への言葉遣いに配慮するように伝えている。人権尊重や守秘義務について年1回研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し、否定しないように心がけています。気軽に相談出来るように、職員は日頃から一人一人に声かけするように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけしながら本人の体調を聞いたりしています。無理じいせず、個人に合ったペースで支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、爪切り、髭剃りをしています。自分で出来る事は行ってもらい、見守りしながら声掛けをしています。意思の確認がなかなか取れない利用者にもその人らしい着衣に配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の食べたい物などを聞き出したりしています。調理レクリエーションなどをして、皆で楽しんで食事をすることもあります。	献立は地元の食材を取り入れて職員が作っている。温かさなどにも気を配って提供している。利用者はそれぞれ盛り付けや野菜の下ごしらえなどできることを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態を観察し記録しています。水分や食事が取りづらい利用者には声掛けをしています。食事に配慮が必要な利用者は栄養指導を供い対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要に応じて口腔ケアを行っています。義歯の手入れなど出来ているか見守りし、管理しています。毎月、口腔指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、時間を確認しながら声掛け誘導をしています。できる事はやってもらうよう見守り、声掛けを行っています。	排泄チェック表等からそれぞれの排泄パターンを把握して声掛けを行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間もトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションの体操で体を動かすように声掛けをしています。必要があれば主治医に相談し、排尿、排便を促す方法をとっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆずや入浴剤を入れて色や香りを楽しむ工夫を心がけています。風呂上りには乾燥防止でクリームを塗るようにしています。また、傷がないか全身チェックしています。	入浴は基本週3回としている。季節が感じられるようなゆず湯を行ったり、入浴剤を使用している。好きなシャンプーの持ち込みをしている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせて声掛けをして、安心できる雰囲気を作るように心がけています。安眠に入る前にトイレに誘導したり、部屋の温度を調整したり工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用など個人ファイルに添付して職員が把握し理解ができるようにしています。誤飲や飲み忘れがないようにチェックリストを作成しています。本人が服用する時に見守りするなど配慮もしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、能力、好みを把握し、理解して個人に合った支援ができるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスのため、外出は控えています。せめて外の空気を吸うために皆で庭に出て外気浴をすることもあります。新型コロナウイルスが落ち着いたら以前のような支援をして行こうと思います。	職員と一緒にゴミ捨てをかねて広い敷地内を散歩に行っている。建屋の前の敷地で外気浴したり、椅子を出してお茶を飲むなど気分転換している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で立替えるので個人的に金銭は所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時に電話の代行を行っている。携帯電話を所持している方もいます。お正月にみんなで年賀状を書いて、家族に送付しています。目が見づらい利用者には、朗読や代読などで情報を提供しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるような工作を考案し、皆様で作った作品を飾って楽しんでいます。ホールには花を飾ったりして、明るい空間になるよう工夫しています。	清潔管理と感染症対策に力が入れられている。広い廊下はリハビリ歩行に有効活用されており、ところどころにソファや椅子が設置されており、思い思いに休憩したり寛ぐことができる。食堂には大きなテーブルとテレビが置いてある。小上がりの畳では利用者が洗濯物畳みや編み物をして寛げるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が1人部屋なので、本人の思いの空間で過ごせるようになっています。リビングで雑談をしたり、くつろげるようにソファやテレビが設置してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを持ってきてもらい、過ごしやすい空間を作る工夫をしています。	使い慣れたもの、好みの毛布など、なるべく自宅で使っていたものを持ってきてもらえるように話している。利用者はそれぞれテレビやラジオ、写真や整理ダンスなどを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を付けたり、一人ひとりに合った福祉用具を用いたりしています。座席には名前を付けたり目印に座布団を置いたり工夫しています。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

高齢者グループホーム アテン中郷

作成日 令和 6年 2月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	土砂災害や夜間想定避難訓練が不足しており、災害に備えた備蓄品の管理が不十分である。	土砂災害や夜間想定避難訓練と備蓄品の管理をする。	土砂災害や夜間想定避難訓練を行い、災害に備えた備蓄品の表を作成し管理する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。